

渡辺復興大臣記者会見録

(平成31年4月5日(金) 14:30～14:40 於) 福島県会津若松市)

1. 発言要旨

本日は、まず会津若松市役所を訪問し、室井市長と、観光客の減少といった風評被害などに関する意見交換を行ったところでございます。

その後、この場、大熊町役場会津若松出張所を訪問し、渡辺町長と意見交換をしたところでございます。

本日、原災本部の決定がありまして、4月10日、大熊町として初めて、大川原及び中屋敷地区の避難指示が解除されました。

大川原地区においては、4月14日に町役場新庁舎の開庁式が行われ、5月に新庁舎の業務が開始され、6月に災害公営住宅に50世帯の方々が入居されます。

大熊町の復興に向けた大きな一歩に、私自身、改めて喜びを感じているところでございます。

復興庁としましても、町のご要望を真摯にお伺いしながら、大熊町の復興を引き続き支援してまいります。

2. 質疑応答

(問) お伺いします。改めまして、今日、こちらを訪れてどんなふうに思われたかという感想と、今もおっしゃいましたが、大熊町の一部地域避難地区解除が今日ありました。今後、復興庁として、大臣としてどんな方法で向き合っていきたいかということを、改めてお願いいたします。

(答) 4月10日、今日、原災本部で決定されたわけです。今回の大熊町会津若松出張所訪問の趣旨・目的については、全町避難から8年たちました。町長を初め、職員の皆さん方は大変ご苦労なされたというふうに思っております。そして、新たに4月14日に庁舎が完成し、そして、5月から実際の業務が行われるということになります。職員の皆さん方は、8年間、町長のもと大変ご苦労なされたというふうに思います。まず、職員の皆さん方にご慰労を申し上げ、そして、次の新庁舎においては、さらに大熊町のために、町民のために頑張っていただきたいという激励を込めて、今日は訪問をさせていただきました。

そして、実際に今度庁舎が移転して、大熊町はいよいよ、一部解除でありますけれども、避難指示の解除が行われたということであれば、避難指示を解除されたこの地域を中心として、町づくり

をどのように進めていくか、これは復興庁としても関心を持って応援をしていきたい、このように思っています。

(問) 町長とはどういった内容をお話しになりましたか。

(答) 町長とは、8年間本当にご苦労さまということを、新しい庁舎ができるわけでありますが、新庁舎において、新しい大熊町の町づくりについて先頭に立って頑張っていたきたい、そんなお話をさせていただきました。

(問) それに対して、町長からどのような反応がありましたでしょうか。

(答) 町長は、初めてここに来たときの状況も実は、菅家議員が後ろにいらっしゃいますけれども、その当時、菅家議員は会津若松の市長でして、そういった意味で、どの場所に庁舎を設けるかということに対しては、菅家議員がかなり貢献していただいた、そういったお話も聞かせていただきました。

したがって、大変なご苦労をして、町長は、こちらの中で、しっかりと、今、町民の皆さん方の安心できる場所として機能しているということを、私自身も感じさせていただきました。

(問) 大熊町は新たな一步を踏み出すわけですが、政府としては、町の復興のためにはどのようなことが課題だと考えていますか。具体的に教えてください。

(答) 実際に、大熊町そのものは一部地域避難指示の解除ということでもありますので、これは、いつまでにほかの地域を解除していくか、大変大きな問題があります。この問題については、しっかりと向き合っていかなければならないというふうに思いますので、しっかりと、今後の検討として取り組んでまいりたいというふうに思います。

(問) 町のほうから何か要望というのはあったのでしょうか。

(答) 大熊町の復興に関する要望書ということで、大熊町の町長の渡辺利綱さん、それから、大熊町の町議会議長の鈴木光一さんからいただきました。

その内容でございますけれども、帰還困難区域全体の復興に向けた取り組みについて、それから、復興・創生期間終了後の復興財源等の確保について、3番目としまして、復興・創生期間における東日本大震災からの復興の基本方針について。以上、3点を要望として受け取ったわけがあります。

それに対して、しっかりと、私もはこの要望については真摯に受けとめていきたいというふうに思います。

(問) 今日、避難指示解除が原災本部のほうで決定されたということで、来年、東京オリンピックも控えています、今後、加速が期待されています。五輪という観点から、避難指示の解除について、

大臣はどのように受け止めていますか。

(答) これは、もう来年です。帰還困難区域についての国としての方針は、たとえ長い年月を要するとしても、避難指示を解除して、ふるさとに帰れるような環境をつくっていく、これが一番私たちの仕事だというふうに思います。そして、その間、来年に向かってできることというのは、残念ながら全体の解除は難しいわけがありますけれども、少なくとも一部解除をしたところについてはできることはやっていきたい、そのように思っております。

(以 上)